

(特非) さっぽろ自由学校「遊」

SDGsに基づくNPOのアドボカシー力の向上とセクター間対話の推進

活動地域 北海道

ひろげる助成
4年目
知識の提供・普及啓発

参加した属性別グループの数	10グループ
プロジェクト参加人数	200人超
今年度計画の達成度	80%
目標達成度	90%



2021年度全体ミーティンググラフィックワーク

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

当事業の実施期間が、新型コロナウイルス・パンデミックの期間と重なってしまったため、対面で予定していたミーティングの多くが実施困難になった。

■ 工夫した点

新型コロナウイルス禍で急速に普及したオンラインミーティングを積極的に活用することで、活動を休止することなく進めていくことができた。

課題

持続可能で公正な社会の実現のためには、健全な「市民社会」の成熟が不可欠であり、NPO/市民活動のアドボカシー力の向上とともに、諸セクターの「市民化」が必要。

目標

SDGsが北海道における多様な主体にとっての共通の目標となり、市民活動の実践や提言がいかにされる民主的な市民社会が形成されていくこと。

活動内容と成果

SDGsが掲げる「誰ひとり取り残さない」社会づくりを地域で具現化するため、北海道メジャーグループ・プロジェクトを立ち上げ、各グループで話し合いや活動を進めていくとともに、それらを全体で共有するミーティングを実施した。2021年度には10グループ（ユース、女性、障害者、農民、先住民、地域コミュニティ、NGO・NPO、協同組合、企業、研究者）がそれぞれグループミーティングを実施し、未来へのビジョンやその達成に向けた取組みについて共有した。2020年度の活動成果は、冊子にまとめ各関係者に配布した。



プロジェクト2020報告冊子



メジャーグループ立ち上げに向けた話し合い

全助成期間の活動を振り返って

国連が提唱する2030アジェンダのスタンス（包摂性、統合性、バックキャスト、人権ベースなど）に倣い、地域で多様な主体が自分たちの未来のビジョンを描き、共有しあう対話の場を作り出したこと、その多様性の意義や豊かさを発信できたことは大きな成果であった。とかく画一性や横並びが求められる日本社会において、当事者性を重視した活動のあり方は、健全な市民社会の形成・発展の重要な基盤となると確信している。

〒060-0061
北海道札幌市中央区南1条西5丁目 愛生館ビル5F
電話：011-252-6752
E-mail: syu@sapporoyu.org
HP: http://sapporoyu.org/



今後の展望

市民、とりわけ社会的に弱い立場に置かれている人々にとって、自らの意見や考えを社会に発信していくこと自体に大きな抵抗や壁があり、そのことが真に民主的な社会を形成していくうえでの大きな障壁となっている。弱い立場にある当事者の声を社会やその基盤となる政策に反映させる仕組みを作っていくことが必要であり、それを常識化していきたい。

総合環境教育